

「人生のやる気デザイン」研究部会（第22回）

日時：2022年3月22日（月）10：00～12：15

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：渡辺弥生・榎本淳子・中井大介・中谷素之・杉本希映 各兼任研究員

吉久知延所長・山口和人・金沢千秋・泉水里香（野間教育研究所事務局）

欠席：倉住友恵

内容：（1）中井研究員：「青年期における自己不一致と自己像の揺れおよび自己形成との関連」

1. 上記テーマについて、先行研究を下記項目ごとに紹介
 - ①自己像の揺れ ②自己像の揺れと自己形成 ③自己像の揺れの方向性
 - ④自己指針と自己形成過程における自己像の揺れ
2. 以上の先行研究では、自己像の揺れを自己形成と関連するものとして捉え、揺れの規定要因や方向性も考慮したうえで検討したものは少ない。そこで、以下のような検討を目的とした研究を2021年12月に212名の大学生で実施
 - ①自己像の揺れやその方向性を規定する要因を検討する。その際、規定要因として、指針となる自己（理想自己・義務自己）と現実自己との不一致を取り上げる
 - ②自己像の揺れの規定要因を踏まえた上で、自己像の揺れと自己形成との関連を検討する
3. 調査の方法と時期、手続き、実施内容、考察
4. 上記調査のまとめと今後の課題について
 - ①自己像の揺れの方向の弁別性がより明確になった
 - ②自己像の揺れが自己形成に寄与する側面がある
 - ③課題は、自己像の揺れという概念そのものについて再検討の必要があること
 - ④もう一つの課題は、自己像の揺れを自己形成の過程として位置づけ、詳細に検討するためには、縦断的研究が必要であること

（2）榎本研究員：「日本の成人先天性心疾患患者の病みの軌跡」をテーマとしているが、今回は「意味づけ」について考える

1. 「意味づけ」の研究として、語りに見る人生の意味を検討、特にライフストーリー研究として下記の文献を紹介し、考察
King, L. A., Scollon, C. K., Ramsey, C. C., & Williams, T. (2000).
Stories of Life Transition: Subjective Well-Being and Ego Development in
Parents of Children with Down Syndrome. *Journal of Research in
Personality*, 34, 509-536.
(人生の転機のお話：ダウン症児の親の主観的幸福感と自我発達について)
2. その他、最近読んで面白かった文献を紹介
 - ・「軽度障害者の障害の意味について」（田垣，2002；秋風，2008）

→「障害」をもつ人が「障害」にどういう意味を見いだすのか、「障害」がその人の生き方や人生における「価値」の問題とどう関わるのか？ 次回発表の予定

- 次回研究会 4月25日(火) 13:00～
- 次々回研究会 5月23日(月) 13:00～